

関係各位

公益社団法人日本ローイング協会 事務局・審判/強化スタッフ
WR 国際審判 (No.1627) 中島 大祐

**【大会参加報告】2024 アジア・オセアニア オリンピック・パラリンピック大陸予選/
アジアカップ (Chungju, Korea) 2024/4/19~21**

1. はじめに

- (1) 2024年4月19日(金)~21日(日)に韓国・忠州 Chungju の Chungju Tangeum Lake International Rowing Center (忠州弾琴湖国際漕艇場) で開催された 2024 Asia Oceania Olympic and Paralympic Qualification Regatta (以下、大陸予選) / Asian Cup (以下、アジアカップ) に ITO 審判員 (Jury) として参加した。
- (2) 私自身、2022 WR Championships、2023 WR Beach Sprint Finals / WR Coastal Championships に続き 3年連続 6度目の WR イベントの審判であった。(大陸予選の審判は自身初)
- (3) 日本からは大陸予選に 5クルー/7人、アジアカップに 7クルー/10人が参加しており、審判業務の傍ら、選手・スタッフのサポートに心掛けた。尚、大陸予選では LM2x、LW2x、PR1M1x がパリ大会への出場権を獲得した。(PR1M1x はレース 1位の KAZ 除外による繰り上げ)
- (4) 今回は 2大会が併催されたが、大陸予選が WR 主催、アジアカップが ARF 主催であり、艇に貼るステッカーは夫々の主催者のものとされた。審判団は 2大会共通で切れ目なく審判を行った。尚、アジアカップにはレース後の表彰式があるが、大陸予選には表彰式はなく、揚艇後に「予選通過」のプレートを持った写真撮影があるのみであった。
- (5) 大会期間中に WR 審判委員会による審判セミナーが開催されたので受講した。ここ数年、韓国の国際審判養成が急速に進んでいると感じる。

2. 大会概要

(1) 日程

4月18日(木) <Day マイクス1> 15:00 TMM & Draw、16:00 Jury Meeting、17:00 Nations Dinner
4月19日(金) <Day 1> 09:30 Heat/Preliminary/Repechage、18:00 Umpire Seminar①
4月20日(土) <Day 2> 09:30 Semi Finals/Repechage/Finals、17:30 Umpire Seminar②
4月21日(日) <Day 3> 09:30 Finals

(2) 競技会場

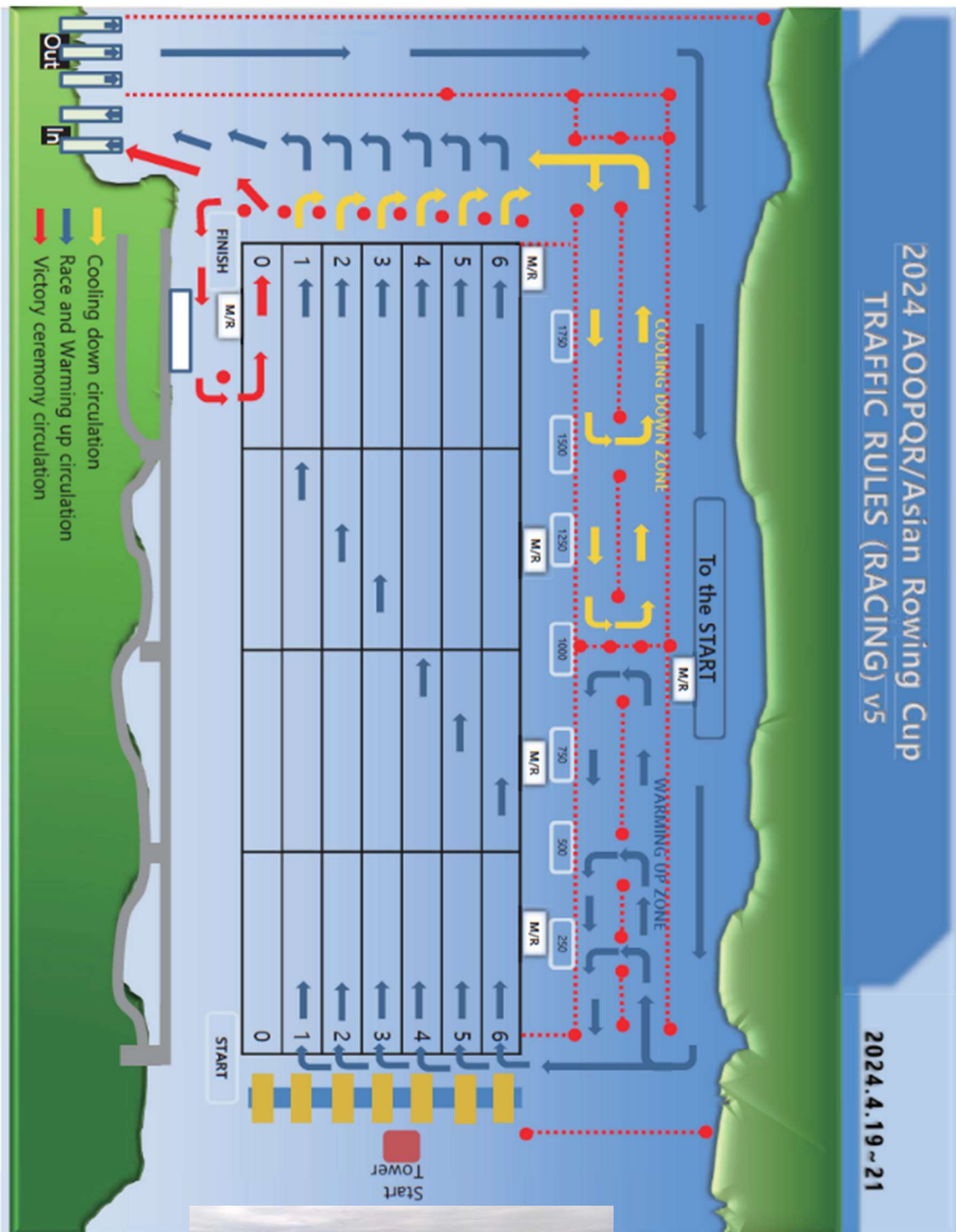
大会は大韓民国 (KOR) 忠清北道忠州市にある Chungju Tangeum Lake International Rowing Center (忠州弾琴湖国際漕艇場) で開催された。審判の宿泊ホテルは競技会場からシャトルバスで約 15分の忠州市内に用意された。

この会場は 2013年の世界選手権 (WR Championships) や 2016年のアジアオセアニア大陸予選を開催している。2013年以降、近隣の開発に力を入れているとのことで、数年前にはピクニックパークがオープンする等、大会開催時以外にも人が集まる場所になっているとのこと。

(3) コース概要

コースは、湖とは言っても両岸がほぼ平行の川のような場所にある。スタートタワーから見て左から 0~6レーン (全7レーン) となっており、6レーンの右にウォームアップ・クールダウン水域が、更に右に回漕レーンがある。アライナーハット・フィニッシュタワー・イン・アウト

トポンツーンなどの陸上施設は全て向かって左にある。概ね海の森水上競技場と同じレイアウトだが、海の森が右から（陸上施設の対岸から）0レーンとしているのとは異なる。



(写真) スタートタワーから見たコース

(4) スタートリスト

大陸予選は WR ルール通り、バウナンバーを 1 から順に振っていたが、アジアカップは旧・ルール通り、4杯レースならバウナンバーが 2・3・4・5 のように振られていた。背景は不明。

(5) 種目

以下種目が行われた。20ヶ国から 120 クルー、232 人がエントリー。

	<u>大陸予選</u>	<u>アジアカップ</u>
オリ・オープン	1x(M/W)	2-/2x/4x(M/W),8+(M)
オリ・軽量級	2x(M/W)	1x(M/W)
パラ・PR1	1x(M/W)	
パラ・PR3	2x(Mix)	

3. 審判（全般）

(1) 集合、宿泊、食事、移動等

・集合：4月18日（木）Day マイクス1 16:00 First Jury Meeting

・宿泊：忠州市内にある Chungju Grand Tourist Hotel。最寄りのスーパーマーケットまで徒歩 10 分程度と便利な立地だった。（チームの宿泊先の中には小高い丘にあり、景色や空気は良いが街に出られないホテルもあったとのこと。）

・朝食・夕食：ホテルのレストラン。

・昼食：会場から徒歩 5 分のレストランが ITO（審判以外を含む）の昼食会場であった。午前のレース終了後に連れ立って食べに行くのが基本で、午後の早い時間に舵手計量などがある審判のみ午前の部署を早目に抜けて先に食べる仕組みだった。

・移動：ホテル・会場間はシャトルバスで約 15 分。08:00 の審判ミーティングに向け、07:15 ホテル出発。06:30 に朝食開始だった。

・審判ミーティング：大会期間中は 09:30 第 1 レースの 90 分前である 08:00 から実施。

・スタートへのバス：08:15 発

・Jury Photo：最終日の審判ミーティング後。

(2) ITO/NTO/WR 役員

President of Jury : Nick Hunter AUS (Takao Senda JPN は急遽欠席)

ITO : 14 名 (HKG/INA/IND/JPN/KOR/MYA/PAK/SGP/SRI/THA/TPE/VIE/AUS/NZL 各 1 名)

NTO : 約 30 名

Technical Delegate : Victor Ng HKG

World Rowing Doctor : Mikio Hiura JPN

4. 審判（業務面）

(1) 担当部署

以下部署を担当した。

Day 1	09:30-11:40 (13 races)	Responsible CC	14:00-15:40 (11 races)	Responsible Finish
Day 2	09:30-11:50 (15 races)	U-1	14:30-16:20 (11 races)	A.Weighing / CC Out
Day 3	09:30-11:40 (13 races)	U-5	14:00-15:15 (7 races)	Starter

(2) Starter・Assistant Starter（発艇）

① 部署メンバー

- ・ Start Tower にいたメンバーは次の通り。
 - ・ Starter (ITO)
 - ・ Assistant Starter (ITO)
 - ・ NTO 1人 (NTO 無線で Go の号令を飛ばしていた)
 - ・ 技術者 (Timing 会社の 1人が最初だけいたが、すぐになくなった)
- ・ HKG の Elaina (Tze Yang) Lo と 2人組で Starter と Assistant Starter を交替しながら務めた。
- ・ BH は高校生だった。不慣れな BH もいてなかなか揃わないレースもあった。

② 通信設備

- ・ マイクのオン・オフスイッチが固く、切り忘れが多発した。
- ・ マイクと無線を近づけると干渉することがあり、無線は Assistant が持つことにした。
- ・ JaS とのホットラインがなく不便だった。JaS の Gregory Smith からは部署に着く際に「白ライトは 1 分前以降に点灯する」と申し合わせがあったが、ホットラインがあればこのような取り決めは不要だった。

③ 発艇合図信号

- ・ Start Signal（発艇合図信号）は「Nanjing Shuishang（南京水尚）という会社のもの、会場に常備されているもののようであった。1セットに付き信号が縦に 4 個並んでいたが、上 2 つは光らず、下 2 つが赤から緑になった。
- ・ False Start ボタンが青色だったのが紛らわしかった。
- ・ Automatic Starting System（自動発艇装置）は設置されていなかった。



(写真) スイッチボックス



発艇合図信号



スタートポンツーンとスタートタワー

④ その他

- ・ 初日レース後の TMM で TD (Technical Delegate) から「飲料ボトルをクルーがポートホルダーに投げることは禁止されている。初日は注意に止めたが、2 日目からはイエローカード対象とする」との説明があったが、担当したレースではそのようなクルーはいなかった。
- ・ 初日レース後の TMM で INA から「W2x の 1人が宗教上の理由でヒジャブを、もう 1人はクリスチャンで別の帽子を被っていたところ、Starter から統一を求められ嫌な思いをした」との訴えがあり、PoJ が謝罪する場面があった。

(3) Umpire（主審）

① 基本動作

- ・ 本大会は全てのレースで Dynamic Umpiring（追行方式）であった。待機位置は、0m、100m、600m、1100m、1600m（全 5 艇）。
- ・ First Jury Meeting で「優先順位は（1）Safety、（2）Fairness、（3）Facilitate」との説明があった。（Facilitate の意味は「円滑に進める」の意味と考えられる。）

・また大陸予選 Final A では艇種毎にクリティカルスポットが異なるので主審は事前に何位までが大陸予選通過なのかを確認するよう、注意があった。

② 操縦者と審判艇

・カタマランの操縦は NTO が務めた。回航時にスピードを出し過ぎる操縦者には注意して減速してもらった。同じタイミングで PoJ から無線で「審判艇がスタートに戻る際にスピードを出し過ぎて波が立ったとクルーからクレームがあった」と連絡があった。

・別の操縦者は停止する度にスマホで動画を見たり、電話をしたりと落ち着かないので注意してやめてもらった。

・折り畳み式キャノピーがついている審判艇の場合、雨や暑さを凌ぐために操縦者の判断で開閉が行われた。操縦者が発艇3分前に開くと言ったが、5分前にしてもらった。

・白旗は風防の前方に出して追行したが、他の主審を見ると風防の内側で構えている審判が殆どで見栄えは良かった。自分も試してみたが、いざという時にタイミング良く旗を上げられなかったもので、見た目よりも実用性だと改めて認識した。

(4) Judge at the Finish (判定)

① Responsible Judge at the Finish の基本動作

・ Photo Finish のスクリーンの前に座る。(決勝線は直接見ていない。)

・スクリーン上で Timing 会社が行う処理の内容を確認する。

・ Timing 会社が印刷した Result Sheet を確認し、署名した上で「Race xxx, Official!」と叫ぶ。



(写真) Finish ルーム (最前列にカメラがあるので立入禁止表示あり)

② 通信手段

・ ITO 間では WhatsApp による情報交換が行われた。大陸予選では Responsible Judge at Finish から Umpire に向けて WhatsApp による順位の共有を行った。(一度、Resp.Finish から PoJ を経由してみたが効率が悪いので直接入力することにした。)

③ Timing 会社の書式

・アジアカップで「KAZ 2」が出漕したレースで Timing 会社から回ってきた Result Sheet に「KAZ」としか表示されていなかった。Timing 会社に KAZ 2 に直すよう差し戻したところ、システム上で変更不可だが、Result Summary では枝番が表示されるとの説明だった。PoJ の了解を得て、Result Sheet に渋々サインした。

(5) Control Commission

① Control Commission 全体

・レイアウト的には In-Out Pontoon の近くに Athlete Weighting (AW) の小屋があり、Boat Weighing (BW) も最短距離の艇庫内にあり、理想的な配置だった。

・ Photo Book は、2冊が CC に1冊が AW に置いた。



(図) ⑦AW が In-Out Pontoon の近くにある。⑤BW も最短距離にある。

② Control Commission Out

- ・ CC Out で UAE と IRQ のブレードが届出と異なるので指摘した。初日の午前だったので「後で対応する」という言葉を信じてその場はやり過ごした。
- ・ マスキングテープ：白・黄・茶・緑・黒のガムテープが CC の小屋に置いてある。



(写真) マスキングテープ各色



UAE のマークが小さ過ぎる

③ Athlete Weighing (選手計量)

- ・ 大会最初の舵手付き種目は 2 日目午後の M8+予備レースだった。
- ・ 自分が 2 日目午後の AW 担当として現場に行くと、DW 作成用のポリ袋とテープはあったが、砂利がなかった。PoJ に要請すると、ギリギリのタイミングで「砂」が届いた。会場内を掘り起こして砂を集めてきたようであった。
- ・ ユニフォームを着てこない Cox がいたので出直させた。

④ Rescue について

- ・ WR Doctor の日浦氏から「In Pontoon に First Aid を設けたかったが実現せず。それなら In Pontoon に伝令用の NTO を配置してほしいと言ったが、これも聞き入れられなかった。何かあったら審判から直接無線で Medical を呼んでほしい。」との話があった。

以上

<Jury Photo>

